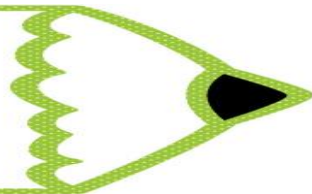


松梅校道徳通信

10月18日

文責：亀川



各発達段階で「節度・節制」について考えました

特別の教科「道徳」の、2回目の研究授業が、10月16日(水)にありました。今回のテーマは「節度・節制」。小学1年生・5年生、中学1年生・2年生、それぞれの発達段階に応じた授業を行いましたので、報告します。ご家庭でも、ぜひ子どもさんと「節度・節制」について話し合ってみてください。

小学1年生「かぼちゃのつる」

自分の畑ではないところにツルを伸ばすカボチャ。蜂やチョウチョなどから「困るんだけど」と注意を受けるが、素直に聞き入れず、ツルを伸ばし続ける。その結果、ツルは車にひかれて切れ切れになってしまうという話。

パソコンで「自分のものを散らかしている場面」「他の人のものを勝手に触っている場面」「滑り台を下から登っている場面」を見て、その後どうなるのかを考えました。皆で改めて「わがまま」はいけないことだと再確認しました。



小学5年生「流行おくれ」

友達が持っている上着がうらやましく、母に自分も買ってほしいとねだるまゆみ。その願いを母に受け入れてもらえず、むしゃくしゃした気持ちで自分の部屋に戻ると、弟が「姉に貸した本は友達の本。自分は買ってもらうのを我慢した」と聞かされ考え込むという話。

母とまゆみになりきって役割演技をし、二人の会話の続きを考えました。「最後までちゃんと大切に使用してほしいのかなあ。」と、母の気持ちに寄り添った意見が出ていました。



中学1年生「古びた目覚まし時計」

古い目覚まし時計にまつわる話を父から聞かされる。その話とは、毎朝母に起こされていた父が、祖父からもらった目覚まし時計によって一人で起きるようになったというエピソード。

各場面での父の気持ちを考えた上で、規則正しい生活を送る上で大事にしたいことについて、旅行学習という手法を使いながら考えました。友達や先生に対して、自分の意見を伝えようとする姿が多く見られた授業でした。



中学2年生「鳥のように飛ぶたい」

スキージャンパー高梨沙羅選手の「目標のためならどんなことでもできる」という言葉から、どんな生活を送っていたのかを想像し、どうすれば高梨選手のような規律正しい生活を維持することができるかを考えました。

それぞれ「天使」と「悪魔」になって考えることで、節制した生活がどれだけ難しいかを実感していました。子どもたちは、節制とは「気持ちを抑えること」「自分を制御すること」だという意見を述べていました。



次回の研究授業は11月20日(水)。「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」をテーマに、小学4年生・6年生、中学2年生・3年生で授業が行われます。